

が国の確固たる姿勢を示し、世界人口の将来に貢献するための国際協力を積極的にし、海外援助にも実効ある方策を具体的に示して、世界の信頼と期待に応えることを切に希望するものである。

(付表・付図は省略)

(黒田俊夫記)

## 第 1 回 日 本 人 口 会 議

国連が提唱する「世界人口年」の本年8月、ルーマニアの首都ブカレストで開かれる予定の世界人口会議に先だて、わが国でも人口問題に対する関心を高めようと、初の日本人口会議が、7月2日(火)から4日(木)までの3日間にわたり、東京・霞が関の国立教育会館虎ノ門ホールにおいて開催された。

会議は、(財)人口問題研究会、(社)日本家族計画連盟、(財)家族計画国際協力財団および人口問題協議会の民間4団体共催の下に、厚生省、外務省、日本人口学会、日本青年人口委員会などを始めとする多数団体の後援・協賛を得て行なわれた。会議の議長は、大来佐武郎経済協力基金総裁がつとめ、「世界の人口・日本の人口」と題する基調演説を行なった。

研究討議のテーマは、Ⅰ. 人口と資源と食糧、Ⅱ. 人口と環境と生活、Ⅲ. 人口問題と人間性をめぐって、Ⅳ. 人口静止と行動計画、の四つであった。討議に先だち、各テーマごとに講演があり、それをめぐって、予定討論者のみならず、一般聴講者をも混えての活発な討論がなされた。海外からの特別参加もあり、そのうち、国連人口活動基金のウィリアム・ドレーパー顧問は、「人口爆発の意味するもの」と題する特別演説を行なった。最終日には、「わが国の静止人口達成のため“子供は2人まで”という国民的合意を得るよう努力するなど、人口増加の勢いを阻止するための効果的な対策が必要である」といった趣旨の大会宣言が採択された。なお、この会議の詳細については、本誌次号に掲載予定の青木尚雄稿「第1回日本人口会議の概要」を参照されたい。

(山口喜一記)

## 世界人口会議に関するエカフェ地域協議会

標記の会議(ECAFE Regional Consultative Meeting on the World Population Conference)は、1974年5月4日から10日までの1週間にわたり、域内21か国の代表が参加してバンコクに在るエカフェ本部で開催され、本研究所黒田俊夫人口政策部長も日本代表として出席した。

世界人口会議は国連主催の下に、来る8月19日から30日の間、ルーマニアの首都ブカレストで開催されるが、その準備は、日本(黒田俊夫委員)を含む27か国の代表によって構成される国連人口委員会で行なわれてきた。すなわち、1971年の第16回人口委員会において、人口問題に対する地球規模的アプローチの必要性が論議されるとともに、世界人口会議の準備のため、3回にわたる特別会議を開催することが決定され、これらを通じて世界人口会議の最大の目標である「世界人口行動計画」の草案を始め、世界人口会議の仮議題等が決定された。特に、世界人口行動計画については、行動計画顧問委員会が別に設置され、人口委員会と交替で審議が繰返されて本会議に提出される第3次案がまとめられた。

世界人口会議が開催されるまでには、各地域経済委員会を単位とした人口会議(たとえば1972年11月の第2回アジア人口会議がそれ)、世界人口会議で扱われるテーマに関するシンポジウム、世界人口会議のための地域協議会等数多くの会合が国連およびその関連諸機関の主催で行なわれた。地域協議会は本年5月から6月にかけて各地域経済委員会ごとに行なわれ、上記の世界人口行動計画第3次案を審議し、地域ごとの意見がとりまとめられたが、今回のエカフェ地域での地域協議会でも、行動計画に量的目標を折込むなど、これをより積極的なものとするための報告書が採択された。

(山口喜一記)